

# よくある間違いと記入上の注意

- ・ 様式誤り  
→ 去年の様式、異なる科研費の様式、異なる申請資格の様式などを使用している
- ・ レイアウト崩れ  
→ ページ上部のヘッダーや左上に記載されている「(研究目的・内容等の続き)」、下部のページ番号、申請者登録名などについて消してしまっている場合がある
- ・ 査読有無の記載漏れ
- ・ ページ番号のずれ
- ・ 図表番号のずれ
- ・ 入学、卒業年度の矛盾
- ・ 修士課程→博士前期課程（医学除く）
- ・ 科研費の申請漏れ（特別研究員の申請と併せて応募する必要有）  
→ 研究期間3年にも関わらず、研究費は1年分の申請しか行っていない場合がある
- ・ 科研費の費目誤り

次ページ以降、DCの様式を使用して記載しておりますが、基本的な内容についてはPDについても同様です。

(申請書情報)

審査区分	①申請資格	DC	受付番号
	②書面審査区分	申請資格に相違ないか。	
	③小区分名		漢字等(7文字以内)により記入されているか。
	⑤専門分野		
⑥研究課題名			

化学式、数式等を含んでいないか。  
DNAのようにアルファベット表記が普通なものは可。

〇〇大学

1. 申請者情報等

(申請機関コード: )

⑦氏名	(フリガナ) 登録名	
⑧学歴 (学部・修士)	1. 年 月 2. 年 月	
⑨博士の状況	1. 入学年月:(西暦) 年 2. 編・転・再入学時の在学期間換算: 年 ヶ月 3. 大学院名: 4. 研究科名: 5. 専攻名: 6. 課程種別: 7. 休学期間合計: 年 ヶ月 8. (西暦) 2026年4月1日時点における博士在学期間累計(休学期間を除く) 年 ヶ月	
⑩研究・職歴等	1. 年 月 ~ 年 月 2.	
⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙:		

32文字以内。旧姓や通称名等の使用も可。

- ・現在修士課程に在学中の者は、入学年月日のみ入力し、修了年月日は入力しない。
- ・の後期課程入学時期と比較して、年月等に矛盾はないか。
- ・早期修了の場合の記入例 (例: 大学大学院修士課程修了(成績優秀につき早期修了))
- ・博士課程(後期)分を記入していないか。(ここは修士または博士前期まで)
- ・修士・博士前期を記入する欄について、名古屋大学(医学系研究科を除く)「博士前期課程」それ以外の大学 不問
- ・別紙にも記載がある場合、内容が一致しているか。
- ・将来の日付が記入されている場合「見込」としているか。

具体的に記入されているか。(「その他」等は不可。)

博士課程前期(修士課程)時の休学を含んでいないか。

1行目を省略せず、上から記入されているか。

有の場合、別紙および白紙があるか、~に記入済みのことも含めて記載されているか。

**DC1**  
 「7.課程種別」が「3年制」の場合 1年未満  
 「7.課程種別」が「5年一貫制」の場合 2年以上3年未満  
 「7.課程種別」が「医歯薬獣4年制」の場合 1年以上2年未満

**DC2**  
 「7.課程種別」が「3年制」の場合 1年以上3年未満  
 「7.課程種別」が「5年一貫制」の場合 3年以上5年未満  
 「7.課程種別」が「医歯薬獣4年制」の場合 2年以上4年未満  
 自動計算で入力されるが、申請資格と矛盾が無い念のため確認する。なお、8.休学期間合計が6ヶ月未満の場合は在学期間累計に含まれる。

⑪博士の特記事項の有無	(博士の特記事)		<ul style="list-style-type: none"> <li>以下に該当する場合、事情が記載されているか。 DC1：博士の状況「7.課程種別」が「医歯薬獣4年制」もしくは「5年一貫制」の場合で現在の研究指導者と採用後の受入研究者が一致しない場合 DC2：現在の研究指導者と採用後の受入研究者が一致しない場合、 ・現在の研究指導者と採用後の受入研究者が一致している場合、「以下の事項には該当しない」が選択されているか。 「転入学、再入学、早期修了、長期履修学生等」を書く欄ではない。</li> </ul>	
	(フリガナ)氏名	職名	<ul style="list-style-type: none"> <li>職名だけ記載されているか。所属名の記載は不要。 正しい例：教授 誤った例：名古屋大学教授、理学研究科教授</li> </ul>	
⑫現在の研究指導者	研究者番号	<ul style="list-style-type: none"> <li>入力されているか。持っていない場合は「99999999」と記載。「99999999」を記載する場合、本当にないかよく確認すること。</li> </ul>		
	所属機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>職名だけ記載されているか。所属名の記載は不要。 正しい例：教授 誤った例：名古屋大学教授、理学研究科教授</li> </ul>		
⑬採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名	職名	<ul style="list-style-type: none"> <li>職名だけ記載されているか。所属名の記載は不要。 正しい例：教授 誤った例：名古屋大学教授、理学研究科教授</li> </ul>	
	研究者番号	<ul style="list-style-type: none"> <li>入力されているか。持っていない場合は「99999999」と記載。「99999999」を記載する場合、本当にないかよく確認すること。</li> </ul>		
	所属機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>職名だけ記載されているか。所属名の記載は不要。 正しい例：教授 誤った例：名古屋大学教授、理学研究科教授</li> </ul>		
⑭採用後の申請者所属研究科正式名	部局	<ul style="list-style-type: none"> <li>必須項目。正しい情報が記載されているか。 正しい例：工学研究科 誤った例：名古屋大学大学院工学研究科、工学研究科マテリアル理工学専攻</li> <li>「部局」で「その他」が選択されている場合、正式名称が記載されているか。 受入研究者の所属が研究所等であっても、本欄は申請者の所属研究科を記載。</li> </ul>		
	部局	<ul style="list-style-type: none"> <li>必須項目。正しい情報が記載されているか。 正しい例：工学研究科 誤った例：名古屋大学大学院工学研究科、工学研究科マテリアル理工学専攻</li> <li>「部局」で「その他」が選択されている場合、正式名称が記載されているか。 受入研究者の所属が研究所等であっても、本欄は申請者の所属研究科を記載。</li> </ul>		

**特別研究員-DC申請者⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙**

申請書1ページ「⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等」欄にて、必要事項を記載できなかった場合、その他特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合は、本ページ内に全て記載してください。記載する際には、既に入力済の部分も含め全て記載してください。

学歴、博士の状況、研究・職歴等の欄が不足し、別紙「有」を選択した場合のみこの様式が添付される。～のうち、欄が不足した項目についてのみ記載する。

別紙については、下部にページ数の記載は不要(申請書全体のページ数にも含めない)

- ・以前の様式(記入枠があるもの)を使用していないか。
- ・入力済の部分も含めて入力されているか。
- ・研究・職歴等を記載する場合、時系列順で西暦が併記されているか。

例: 1.2016年4月～2017年3月 会社研究所研究員  
2.2017年4月～2020年3月 ××会社研究所研究員  
3.2020年4月 大学大学院博士課程入学( 研究科 専攻)

- ・記載を忘れていないか。
- ・削除していないか。

申請者登録名

(このページには何も記載せず、空白のまま提出してください。)

職歴等別紙を追加している際、  
このページが削除されていないか。

申請資格に相違ないか。

DC

- ・申請資格に相違ないか。
- ・削除していないか。

(DC 申請内容ファイル)

## 【2】研究計画 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。様式の変更・追加は不可です。

### (1) 研究の概要及び研究の位置づけ 本項目は1頁に収めてください。

- ・まず、研究課題名及び研究の概要を500字程度で記入してください。
- ・続けて、特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

研究課題名： ●●●●●

- ・指定のページ数で作成しているか。  
PDF化したとき次ページに何行かはみ出していることがあります。

- ・記載するヘッダー等に誤りがないか。  
同じヘッダーを続けて使用したり、項目が前後していることがあります。
- ・削除していないか。
- ・不要なヘッダーを追加していないか。

### 【チェック項目】

- ・以前の様式(記入枠があるもの)を使用していないか。
- ・本文が明らかに10ポイント未満の文字で作成されていないか。
- ・申請資格に合った様式を使用しているか。(3ページ上部の「DC」や「PD」で確認)
- ・日本語または英語以外の言語で作成していないか。
- ・レイアウト崩れ、ページの追加・削除、様式中の斜体以外の指示書きが削除されていないか。
- ・ページ数に乱れが無いが、順番が狂っていないか。
- ・それぞれの項目について指定のページ数で作成しているか。
- ・不自然なスペース・改行・文字化け・文字切れ等はないか。
- ・項目番号が抜けていないか。(1, 2, 3, 5等)
- ・図の番号が飛んでいる、もしくは重複していないか。
- ・白黒印刷の申請書を用いて審査する必要があるため、白黒印刷にしたとき見づらそうな図はないか。

- ・ページ番号にずれがないか。
- ・削除していないか。

**【2】研究計画（続き）** 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。様式の変更・追加は不可です。

**(2) 研究目的・内容等** 本項目は2頁に収めてください。

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記（※）参照）に応じて、年次計画を示し、具体的に記入してください。研究計画が想定通り進まなかった場合の対応方法があれば、あわせて記入してください。
- ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
- ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。

（※）特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合の応募総額は（A区分）が240万円以下、（B区分）が240万円超450万円以下（DC1のみ）。2年の場合（A区分）が160万円以下、（B区分）が160万円超300万円以下。1年の場合（A区分）が80万円以下、（B区分）が80万円超150万円以下。（B区分については研究計画上必要な場合のみ記入）

（注）本行を含め、以下の斜体で記した説明文及び図は申請書を作成する際には消去してください。

・斜体の文章、説明の図を削除しているか。

- ・（A区分）の研究計画は、必ず記入してください。その上で、（B区分）研究計画上、応募総額が（A区分）の金額を超える必要がある場合のみ、（A区分）の研究計画との相違点（追加的に行う研究内容）を簡潔に記入してください。

●応募区分に応じた研究計画のイメージ DC2で特別研究員奨励費の研究期間が2年の場合

応募総額160万円以下で行う研究計画 （特別研究員としての研究のベースとなる研究計画） （※全申請者必須）	A 区 分	B 区 分
研究計画上、応募総額160万円を超える必要がある場合のみ、 A区分の研究計画との相違点（追加的に行う研究内容）を簡 潔に記入（※希望者のみ）		

・（B区分を選択した場合）  
A区分との相違点が記載され  
ているか。

●応募区分に応じた研究計画のイメージ DC1で特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合

応募総額240万円以下で行う研究計画 （特別研究員としての研究のベースとなる研究計画） （※全申請者必須）	A 区 分	B 区 分
研究計画上、応募総額240万円を超える必要がある場合のみ、 A区分の研究計画との相違点（追加的に行う研究内容）を簡 潔に記入（※希望者のみ）		

- ・（A区分）と（B区分）のどちらを選択したかは、特別研究員の選考における審査及び特別研究員奨励費の審査に影響はありません。
- ・海外の研究者との交流、海外での研究など海外研さんに関する計画がある場合には、積極的に記入してください。

【2】研究計画（2）研究目的・内容等の続き



・削除していないか。

**【3】人権の保護及び法令等の遵守への対応** 本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可です。

- ・本欄には、「【2】研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究や安全保障貿易管理を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。
- ・例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、インフォームド・コンセントが必要な研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験、機微技術に関わる研究など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。
- ・なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

空欄は不可。  
何らかの記載があるか。  
該当が無い場合、「該当無し」と記述しているか。

#### 【4】研究遂行力の自己分析

本項目は2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可です。

- ・日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、研究遂行力について分析してください。

(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・根拠となるこれまでの研究活動の成果物（論文等）がある場合には、まず成果物の一覧を掲載し、見出し番号を付してください。続く文章では、適宜成果物に言及しながら（言及の際には見出し番号で示すこと）記入してください。
- ・成果物（論文等）は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。
- ・学術論文の場合：著者、題名、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載し、**査読の有無**を明らかにしてください。投稿中で採録が決定していない場合は、「**投稿中**」と記載してください。
- ・研究発表の場合：著者、題名、発表した学会名、場所、年・月を記載し、**口頭・ポスターの別**を明らかにしてください。

#### 【成果物一覧の例】

1. 論文 . . . . .
2. 論文 . . . . .
3. 研究発表（口頭） . . . . .
4. 受賞

・査読の有無の記載があるか。  
・投稿中の場合「投稿中」の記載があるか。

- ・記入にあたっては、例えば、研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に記入してください。また、観点を項目立てするなど、適宜工夫して記入してください。
- ・今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素や意欲的に取り組みたいと考えている事項についても記入してください。

【4】研究遂行力の自己分析の続き





（１）応募中の研究費

研究者氏名				
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	2026年度の研究経費（期間全体の額）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職）（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額）
			(千円)	

見本

(2) 受入予定の研究費

特別研究員奨励費(特別研究員)

資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割	2026年度の研究経費(期間全体の額)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等(左記の研究課題を受入れるに当たっての所属組織・役職)(科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
	<p>東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業は記載不要。</p>			
			(千円)	

見本